

第 20 回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました (2019/02/21)

テーマ：「死者におくる卒業証書 ー東日本大震災と子どもの慰霊ー」
場所：東北大学医学部6号館1階カンファレンス室（宮城県仙台市）

2019年2月21日、東北大学において第20回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーが開催され、東北大学大学院文学研究科 実践宗教学寄附講座 助教の大村 哲夫先生に「死者におくる卒業証書 ー東日本大震災と子どもの慰霊ー」と題してご講演をいただきました。

自己紹介と「実践宗教学寄附講座」や「臨床宗教師」についてご紹介いただいた後、村田勤ら編集の『子を喪へる親の心』から茅野夫妻の「慟哭」を引用して、子を失った親の心について解説いただきました。次いでご自身の研究テーマの「死児への卒業証書」として東日本大震災の被災地における、震災で亡くなった児童生徒への卒業証書授与について説明いただきました。大村先生が2013年と2016年に宮城県内の幼稚園から小・中・高等学校および特別支援学校を対象に行われた研究によりますと、死児が生きていれば卒業したであろう年に卒業証書が授与されており、「死児が死後も成長する」という共通認識が認められました。公立学校では憲法（第20条3）、教育基本法（第9条2）によって宗教的活動が禁止されており、慰霊に宗教資源が使えないため、これに代わるものとして卒業証書授与が贈られるのではないかという考察です。

また「死児が成長する」という他の例として、青森県の村の管理する地蔵堂において、生きていた場合の年齢に合わせおもちゃやランドセル、花嫁人形などが供えられている様子が紹介されました。他国における「死児への卒業証書授与」の例としては2019年2月12日に行われた韓国セウォル号犠牲者の卒業式が紹介され、「死児への卒業証書授与」が学校現場における癒しや慰霊となるのは世界共通ではないかという見解でした。

発表後の質疑応答では、多くの分野の方々から意見をいただくことができ、有意義な議論を交わせることができました。本セミナーの様子は翌日のJ:COM 仙台キャベツ デイリーニュースで紹介されました。



大村 哲夫先生



会場の様子

文責：奥山純子（災害と健康ユニット）